

# 開催案内

## マンスリーセミナー

409 回	6/20 (火)	集積回路技術がもたらす テラヘルツ技術の変革	大阪大学大学院 基礎工学研究科 システム創成専攻 教授 永妻 忠夫 氏
(内容) 1990年代にはじまる、テラヘルツ(THz)波の研究開発のブレイクは、フェムト秒パルスレーザを利用した THz 波の発生と検出技術によりもたらされ、分光やイメージング技術の実用化に繋がった。およそ四半世紀が経過した今日、THz 技術は産業化に向けた新たなフェーズに入りつつある。本講演では、それを象徴する重要な技術トレンドである、「半導体集積回路技術を導入した THz 基盤技術」の動向と、その通信やセンシングシステム応用への展望について述べる。			
410 回	7/18 (火)	データセンタ向け次世代イーサネット 光トランシーバとそれを支える超高速半導体 光デバイス技術の最新動向	日本オクラロ株式会社 戦略マーケティングセンター 主任技師 平本 清久 氏
(内容) IP トライフィックが Cloud Service 等のトライフィックに牽引され今後年率 22%で増大すると予想される中、イーサネット系トランシーバのマーケットはクラウドデータセンタがけん引すると見られている。クラウドデータセンタでは 2016 年からは 100GbE 対応の光トランシーバの導入が本格的に始まっており、2018 年からは 100Gbps 超級の次世代イーサネット対応の光トランシーバの導入が始まると予測されている。 本講演では、そのような背景のもとに IEEE で今年中に完了する見通しの 400GbE に加え、特にデータセンタをターゲットとした新規格として 2015 年末より検討が開始された 25GbE、50GbE、200GbE 及び次世代の高密度 100GbE 等の光インターフェースの規格化の最新状況を概観すると共に、400GbE から新たに導入され、今後の光インターフェースの変調方式のベースとなる PAM4 の特徴や、それら新規格に対応した光モジュールトランシーバのフォームファクタ、それらを実現するための光デバイスの技術動向等について紹介する。			
411 回	8/22 (火)	近赤外分光計測の過去・現在・未来	名古屋大学大学院 生命農学研究科 生物圏資源学専攻 教授 土川 覚 氏
(内容) 近赤外分光法は、波長 800–2500nm の電磁波を物質に照射して、その吸収・反射量から化学成分値等を非破壊で推定する手法である。本講演では、同法の歴史、原理、農業・食品産業・製薬工業・医療等における利活用の事例(果実の糖度、木材の含有水分、食品中の異物検出などなど)、さらには「小型化」や「見える化」を目指した最新の装置開発について紹介する。			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧下さい。

会 場：光産業技術振興協会（有楽町線 江戸川橋駅 3番出口）  
東京都文京区関口 1-20-10 住友江戸川橋駅前ビル 7階  
時 間：午後 3 時 30 分～5 時 30 分  
定 員：60 名（申込先着順）  
<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>

参 加 料：協会賛助会員：1,500 円（1 回につき・消費税込）  
一般参加：3,000 円（1 回につき・消費税込）  
申 込 先：光産業技術振興協会 開発部 間瀬  
TEL：(03)5225-6431 FAX：(03)5225-6435  
E-mail：[mly@oitda.or.jp](mailto:mly@oitda.or.jp)